

つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区の 鉄道の連続立体交差化について

令和8年6月 調布市



1 はじめに

つつじヶ丘駅及び柴崎駅周辺（以下、「当該地区」という）にある5箇所の踏切は、ピーク時1時間あたりの遮断時間が40分以上のいわゆる「開かずの踏切」となっています。

そのため、当該地区において、交通渋滞の発生や地域の分断、踏切事故の危険性など、市民の日常生活に支障をきたしています。

このような中、令和3年度に、踏切道改良促進法に基づき当該地区にある5箇所の踏切が「改良すべき踏切道」として指定されました。

これを受け、市は、これまでの学識経験者を交えた検討会における議論を踏まえ、当該地区における開かずの踏切解消の抜本的な対策としては「鉄道の連続立体交差化」が望ましいとの取りまとめを行っています。

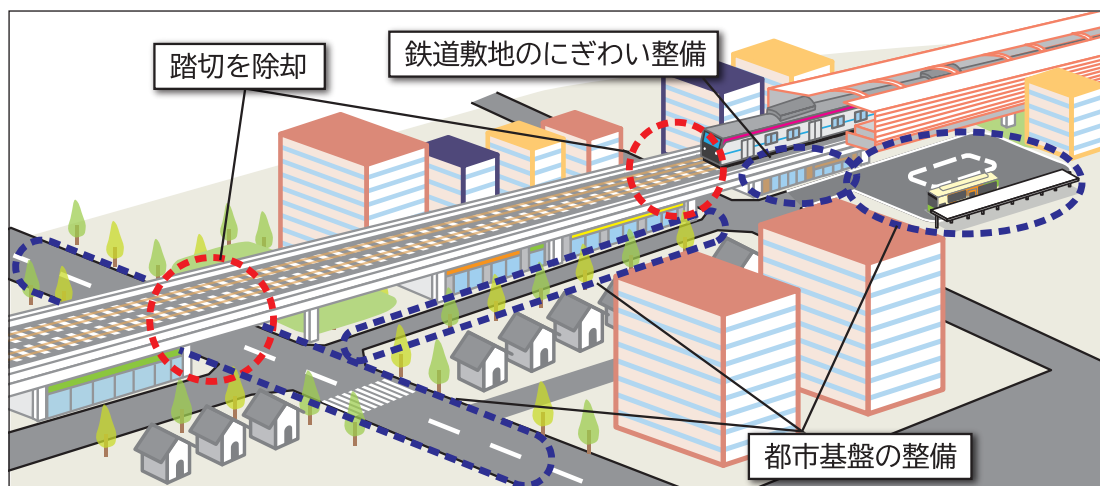
また、市は、これまでの東京都施行による連続立体交差事業の実施状況や関係機関との協議・調整状況を踏まえ、鉄道の連続立体交差化の早期実現と沿線まちづくりを一体的に進めるため、市施行による連続立体交差事業を推進していきたいと考えています。

2 「連続立体交差事業」とは

● 事業概要

鉄道を連続的に高架化または地下化することで複数の踏切を一挙に除却し、都市交通の円滑化や線路で分断された市街地の一体化などを図り、都市活動の活性化を推進する事業です。

● 事業のイメージ



整備前



京成押上線(押上駅～八広駅間)明治通り
(出典:東京都建設局HPより)

整備後



高架化イメージ
京成押上線(押上駅～八広駅間)明治通り
(出典:東京都建設局HPより)



地下化イメージ
京王線(柴崎駅～西調布駅間)
狛江通り

鉄道による地域の南北分断

- 開かずの踏切により南北方向の往来に大きな支障をきたしている。
- 鉄道により当該地区が南北に分断されており、回遊性が低下している。



安全・快適な交通環境の確保

- 当該地区の小学校において、5箇所の踏切道のうち3箇所の踏切道が通学路に指定されており、児童の安全性確保に課題がある。
- 踏切による待ち時間を避けるため、当該地区の南北の交通は清水架道橋（調布 3・4・9 号線）に集中している。
- 幅員4m未満の狭い道路が多く、歩道が整備されている箇所が少ないため、歩行者の安全性確保に課題がある。



公園・オープンスペースの確保

- 敷地面積1,000㎡以上の公園、緑地やコミュニティ活動に利用できるオープンスペース・施設等が少ない。
- 当該地区内の1人あたりの公園面積（大規模な公園を除く）は、市全体と比較して少ない。



にぎわいづくり

- 当該地区の大部分は住居系の用途地域に指定しており、駅の南北は商業系の用途地域に指定しているが、南北での商業的つながりが弱く、駅周辺の商業的な発展が図られていない。



4 鉄道の連続立体交差化の効果

広域的な効果

踏切道における列車支障の解消・ リニア経路円滑化



効果

- 笹塚駅～調布駅までの全ての踏切がなくなるため、踏切道における列車支障（運休）が解消されます。
- そのため、都心側からリニア中央新幹線駅である橋本駅までの移動経路が円滑化されます。

緊急時の円滑な物資輸送経路の創出



効果

- 鉄道の連続立体交差化と併せた都市計画道路等の整備により、物資輸送拠点→第三次指定拠点→広域避難所への最短ルートが整備され、緊急時の円滑な物資輸送に寄与できます。

地域的な効果

鉄道による地域の南北分断を解消

整備前



出典:足立区HPより抜粋

整備後



R7.4月 撮影

東武伊勢崎線(竹ノ塚駅付近)連続立体交差事業より

効果

- 鉄道の連続立体交差化により、当該地区の5箇所の開かずの踏切は全て除却され、踏切事故が解消されます。また、清水架道橋（調布 3・4・9 号線）の幅員も拡張されます。これにより、自転車・歩行者の往来がスムーズになり、地域の南北分断が解消されます。

安心安全な通学路の形成



効果

- 鉄道の連続立体交差化により、当該地区の南北分断が解消され、踏切事故の心配がない安心安全な通学路の形成に寄与できます。

5 踏切位置図



6 駅周辺のまちづくりに向けて

柴崎駅

都市計画道路を鉄道の南北で接続させ、道路ネットワークを改善しつつ、鉄道の南北に交通広場とオープンスペースを確保し、鉄道の連続立体交差化によって生まれる鉄道敷地と既存商店街の魅力が合わさった駅まち空間を創出する。

- 1 地域の利便性を高めるため、柴崎駅周辺の実状に合わせた交通広場を整備する
- 2 調布3・4・8号線と調布3・4・11号線を接続させ、既存の南北の往来をネットワーク化する
- 3 駅周辺で不足しているオープンスペースを確保し、地域のにぎわいや発展に繋がる空間を創出する
- 4 駅前広場に接続する道路は極力歩行者優先で歩きやすい空間とする

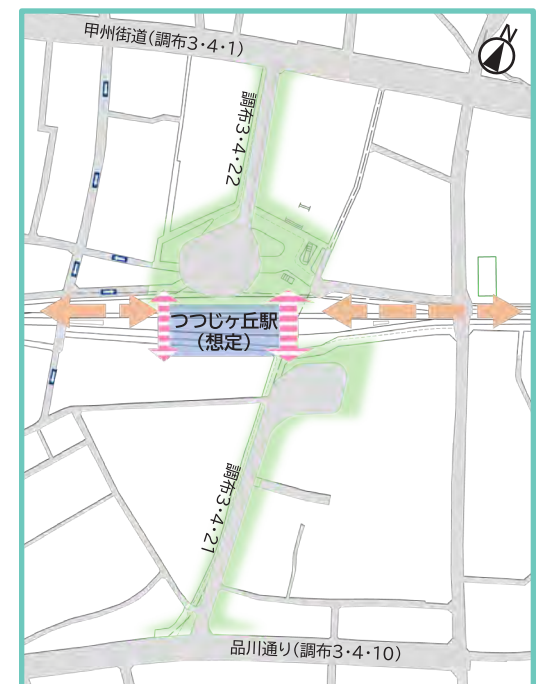


配置パターン (イメージ)

つつじヶ丘駅

都市計画道路整備に併せて南北に駅前広場を整備し、鉄道の連続立体交差化によって生み出される鉄道敷地や歩行者回遊動線に配慮した、にぎわいや憩い空間が繋がる魅力的な駅まち空間を創出する。

- 1 現都市計画をベースとし整備を検討する
- 2 南北の回遊性を高める自由通路を整備する
- 3 駅周辺で不足しているオープンスペースを確保し、地域のにぎわいや発展に繋がる空間を創出する
- 4 駅前広場に接続する道路は極力歩行者優先で歩きやすい空間とする



配置パターン (イメージ)

道路ネットワークの考え方や「つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区まちづくり方針」を基に、地域住民および関係機関との議論を深めた上で駅前広場整備の方向を決定していきます。

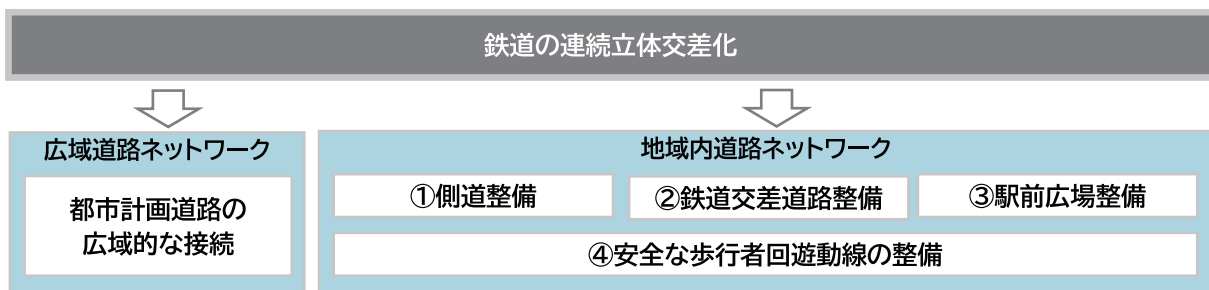
凡例

 車道 側道 オープンスペース等 駅舎(想定)

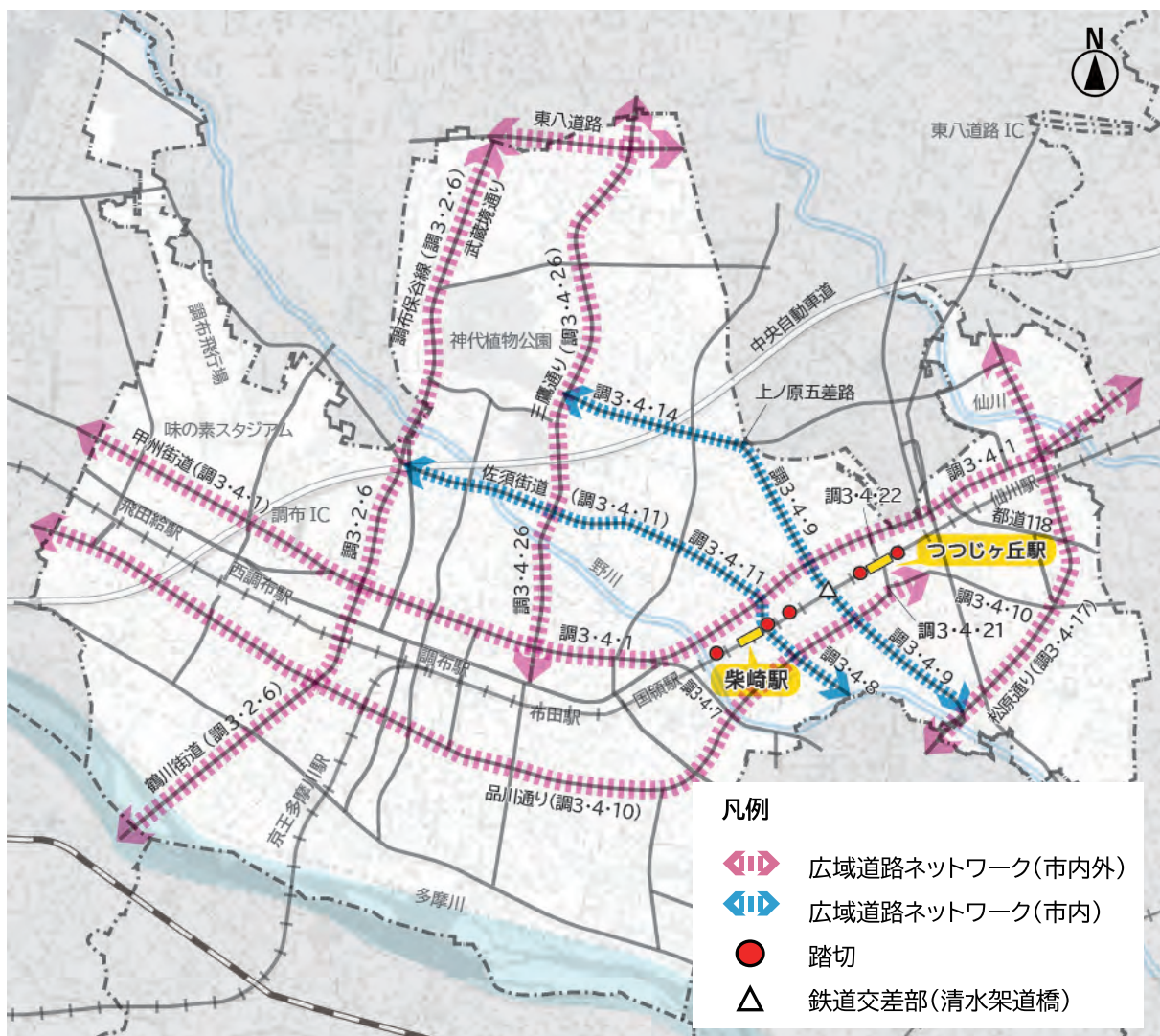
 自由通路

7

- 鉄道と交差する調布 3・4・9 号線や調布 3・4・8号線、調布 3・4・11 号線は、鉄道の連続立体交差化と併せて整備することで、市内の幹線道路である甲州街道や品川通りと接続する道路ネットワークが構築されます。
- 当該地区における都市基盤整備として、東西の往来をスムーズにする側道及び南北の往来を促進する交差道路の整備並びに駅前広場の整備などを進めることで、交通結節機能の向上や駅利用者等の安全かつ快適な歩行環境が創出されます。
- 駅前をウォーカブルな空間として自動車や自転車の流入を抑制するような施策も併せて実施することで、地域内の安全な歩行者回遊動線が生まれます。



鉄道の連続立体交差化に併せた道路ネットワーク計画



※この考えのもと、「調布市道路網計画(R8年3月)」では、R8年度からR22年度までに優先的に整備すべき路線を定めています。

年度

昭和40

平成64元

令和31元

都市高速鉄道第10号線

S43(1968)年12月

都市計画決定
(新宿駅～住吉駅間)

S44(1969)年5月

都市計画変更
(調布駅～新宿駅間追加、
線増線を含む4線高架)

H14(2002)年2月

調布連立※1に係る
都市計画変更

H15(2003)年3月

調布連立 事業認可

H16(2004)年9月

調布連立 工事着手

H24(2012)年10月

笹塚連立※2に係る
都市計画変更

H26(2014)年2月

笹塚連立 事業認可

H27(2015)年3月

調布連立 事業完了

H30(2018)年10月

笹塚連立 工事着手

調布連立 H14 H15 H16 H24 H26

笹塚連立 H25 R12 (予定)

調布市周辺における都市高速鉄道第10号線の事業進捗



改善策の検討

H16(2004)年6月

東京都 踏切対策基本方針

当該地区の鉄道区間は「鉄道立体化以外の対策の検討対象区間」に位置付け

R2(2020)年～

京王電鉄と共に抜本的な踏切対策の検討に着手

R3(2021)年4月

踏切道改良促進法

当該地区の5箇所の踏切は「改良すべき踏切道」に指定

R4(2022)年～

市が連続立体交差事業調査に着手(国の補助金を充当)

学識経験者等を交えた交通環境改善に関する検討会を開催

R6(2024)年3月

学識経験者等を交えた交通環境改善に関する検討会の中間報告を公表

R7(2025)年11月

学識経験者等を交えた交通環境改善に関する検討会の報告書を取りまとめ、オープンハウスを開催

R8(2026)年4月

着工準備採択

H8(2026)年6月

東京都 踏切対策基本方針(改定)

当該地区の鉄道区間が「鉄道立体化の検討対象区間」に位置付け

都市計画手続

都市計画手続

上位関連計画等

H28(2016)年3月

東京都 「東京における都市計画道路の整備方針」策定

調布市 「調布市道路網計画」策定

H29(2017)年9月

東京都 「都市づくりのグランドデザイン」策定

R4(2022)年12月

調布市 「調布市基本構想」策定

R5(2023)年3月

調布市 「調布市基本計画」策定

R5(2023)年8月

調布市 「調布市都市計画マスタープラン・立地適正化計画」策定

R6(2024)年3月

調布市 「つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区まちづくり方針」策定

R8(2026)年3月

東京都 「東京における都市計画道路の整備方針」策定

調布市 「調布市道路網計画」改定

調布市 「(仮称)つつじヶ丘駅・柴崎駅周辺地区まちづくり基本計画」策定予定

※1:調布連立…京王電鉄京王線(柴崎駅～西調布駅間)及び同相模原線(調布駅～京王多摩川駅間)連続立体交差事業

※2:笹塚連立…京王電鉄京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業



調布市

都市整備部 鉄道立体化推進担当 TEL 042-481-7746

刊行物番号

2026 - 056